

うきたむ

第47号

2016.6.17

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585
FAX 0238 - 52 - 4665
URL <http://ukitamu.pupu.jp/>



▲新しく完成した看板

うきたむ考古の会二十周年に寄せて

うきたむ考古の会 副会長 高梨善三郎

うきたむ考古の会が平成七年九月二日に発足してから、早二十年が経ちました。資料館初代館長の川崎先生を会長に、副会長以下十名ほどの役員と、事務局に学芸員の宇佐見みふゆさんが加わった布陣での発足と記憶しています。総会の参加者（会員）も、既に退会なされた方々等、なつかしい方々ばかりを、昨日のこのように思い出されます。

考古の会総会等を経て、考古資料館で企画される、やさしい考古学講座から始まった諸先生方の講座、年に二回（春と秋）の県内各地への『遺跡めぐり』（日帰り）、一泊で行く、『みる、きく、ふれる 遺跡の旅』など各種行事へ参加することで、趣味の世界が大きく拡がりました。

年数を重ね、会員同士親しくおつきあいができるようになると、『自主事業』として、会員有志による遺跡の旅も企画され始めました。例年三月中旬頃、奈良、京都、大阪、滋賀、札幌、福岡、佐賀など、一泊では行きにくい遠方への旅でした。いずれの地も印象深く感動ものでありましたが、特に平成二十三年は、帰路が東日本大震災の発生と重なり、延泊を余儀なくされたこともあり、生涯忘れられることのできない「吉岐」の旅となりました。震災によりお亡くなりになった方へ、改めて、深甚なる哀悼の誠をささげるものであります。

五月、資料館の看板更新に際し、考古の会二十周年記念として、新しい看板を寄贈しました。今回、会員の皆様の御厚志により実施できましたこと、大変嬉しく思います。新看板を前に、歴史考古を楽しみながら、会員の皆様と共に生涯学習を続けたい、と新しい思いを新たにしたいところです。改めまして、資料館歴代館長はじめ、職員の方々、そして、うきたむ考古の会会員の方々に、心より感謝申し上げます。

特別テーマ展

「遺跡今昔物語―いせきこんじゃくものがたり―」

平成28年6月11日(土)～9月11日(日)

特別テーマ展「遺跡今昔物語―いせきこんじゃくものがたり―」を(公財)山形県埋蔵文化財センターの協力で開催いたします。埋蔵文化財が物語る、やまがたの今は昔とは…。

藤島城跡 (鶴岡市)

【現・庄内農業高等学校】
―学び舎の下に眠る城跡の話―

天然の外濠を持つ平城



▲ お花山古墳群13号墳

です。中世の戦乱期、庄内地方における要衝の一つでした。校舎新築に伴う発掘調査で、内堀や土橋状の張出しを検出し、城の構造が明らかになりました。

お花山古墳群 (山形市)

【現・山形自動車道】

―高貴な古人の墓、高速道路が通る話―

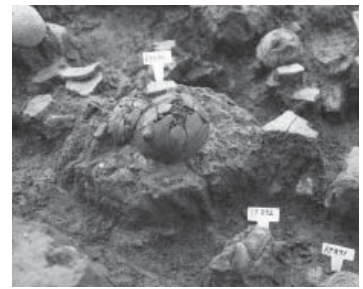
山形市北東部の丘陵に位置する、5世紀末～6

世紀の円墳群です。高速道路建設に伴う発掘調査で、青銅鏡、勾玉、ガラス玉、鉄製武器などが出土し、注目を集めました。図面をもとに石棺の様子も紹介します。

城南一丁目遺跡

(山形市)

【現・霞城セントラル】



▲ SG1 河川跡の遺物出土状況

―城下町の一角、今も昔も大いににぎわう話―

山形駅西口の開発に伴う発掘調査では、奈良・平安時代の集落跡などが見つかりました。山形城三の丸の一部でもあり、近現代までの様々な遺物が出土しました。

下叶水遺跡 (小国町)

【現・横川ダム】

―水底に沈んだ、縄文のムラの話―

縄文時代後晩期の集落跡です。横川ダム建設に伴う発掘調査では、河川跡から大量の遺物が出土しました。なかには、荒川流域(現在の新潟県北部)の特徴を持つ土器が含まれています。

赤ちゃんの手形をつくらう

開催日.. 4月29日(金)～5月5日(木)

例年好評をいただいている「赤ちゃんの手形をつくらう」を、今年度もゴールデンウィークに開催いたしました。今回は、七日間の日程で、いつもより開催日が二日間長く、1000人のお子様たちにご参加いただきました。

びっくりしたり、さまざまな表情をしていました。家族に見守られる姿に、子どもの健康を祈る風景は今も昔も変わらないものなのだろうと感じました。

この企画は、縄文時代の遺跡から発見される幼児の手形・足形の土版に倣ったもので、県内でも村山市の西海淵遺跡で出土しています。昔の人も幼児の健やかな成長を祈ったのでしょいか。

ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。焼き上がりまでもう少しお待ちくださいませ。

参加いただいたお子様のなかには、初めての体験で泣いてしまったり、粘土の感触に



▲ 足形をとる赤ちゃん

第24回企画展

「森と暮らせば」～縄文人の植物利用～」

平成28年9月17日(土)～12月4日(日)

縄文人は様々な植物資源を活用しながら暮らしていました。ところが、

縄文時代の遺跡の大半では植物に由来するものは出土しません。遺跡の多くは高燥の地にあるため長い年月の中で腐朽してしまっただけです。このような中であって、地下水によって腐朽を免れ、

植物利用の実態を示してくれる遺跡もあります。

山形県内では、低湿地遺跡である縄文時代前期後葉の高畠町押出遺跡と、縄文時代前期から晩期まで継続した遊佐町小山崎遺跡から多くの植物由来の遺物が出土し、その暮らしぶりを彷彿とさせてくれました。

第24回企画展では、主

にこの二つの遺跡の出土品を通して、縄文時代の植物利用を考えます。

第一章は「住と木工」とし、小山崎の住居の上部構造の材や押出と小山崎の柱や杭、そして、押出の石斧の柄、縄や樹皮製品、小山崎の組合せ式石斧柄等を展示します。

第二章は「食料の獲得と加工」とし「猟」では押出、小山崎、米沢市上谷地bの弓や、獲物とな

った押出と小山崎の動物骨を展示します。「漁」では押出の玉網、櫂、小山崎の棍棒状木製品、釣針や石錘、魚骨を展示します。「植物」では小山崎のドングリ、クルミ、トチ、栽培種のカボチャ、ヒエ、アサ、ゴボウ

近似種、押出のクリ、クルミ、炭化食品(クッキ―)を展示します。

第三章は「器と漆」とし、小山崎の大形楕円容器、イノシシ形容器、台付小形椀、木胎漆器、漆糸玉、押出の把手付や杓状の木製品、漆器盤残欠、皿、彩漆土器等を展示します。

第四章は「衣・装飾と祈り」とし、「衣」では押出の編物残欠を、「装飾」では押出の赤漆櫛輪、欠、小山崎の赤漆腕輪、結歯式赤漆塗豎櫛、「祈り」では小山崎の銚形木製品、押出の篋状木製品等を展示します。

これらは、いずれも稀少品で通常は温湿度の管理された収蔵庫内で保管されているものも多く、目に触れる機会がなかなかありません。この機会に、是非、縄文時代の植物利用の実態に触れてみてください。

催し物のご案内

今後の催し物です。興味のあるものがありましたら、ぜひ足をお運びください。

(詳細はお問い合わせください。)

- ◇古代風プレスレットをつくらう！
 - ◇遺跡の旅
 - ◇考古学入門講座1
 - ◇勾玉・弓矢・石器をつくらう！
 - ◇特別テーマ展
 - ◇第24回企画展
 - ◇企画展記念講演会
 - ◇第17期考古学セミナー
 - ◇秋の遺跡めぐり
 - ◇うきたむ学特別講座
 - ◇ガラス玉をつくらう！
 - ◇うきたむ学講座
 - ◇考古資料検討会
- | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|---------------|------------------|------------------|----------|-------------------|-----------|--------------------|----------|-----------|----------|---------------------|---------|
| 6月25日(土)・11月3日(祝) | 7月2日(土)・3日(日) | 7月10日・17日・24日(日) | 8月8日(土)・11月3日(祝) | 9月11日(日) | 9月17日(土)～12月4日(日) | 11月13日(日) | 9月25日・10月9日・23日(日) | 10月2日(日) | 10月29日(土) | 12月3日(土) | 1月15日・2月12日・3月5日(日) | 2月5日(日) |
|-------------------|---------------|------------------|------------------|----------|-------------------|-----------|--------------------|----------|-----------|----------|---------------------|---------|

ようしくお願いいたします

四月より齋藤久美子に代わりまして、鈴木亜美(すずきつぐみ)が着任いたしました。新体制でがんばってまいりますので、今年度もようしくお願い致します。



玉龍院 五百羅漢像

高島町金原●近世

高島町金原にある曹洞宗玉龍院は、1500年代の開山と伝えられています。境内には羅漢堂があり、五百羅漢像・十六羅漢・三十三観音が安置されています。五百羅漢堂は山形県内で5カ所（山形市金勝寺、鶴岡市善宝寺、米沢市東源寺など）が確認されていますが、玉龍院の羅漢像は年代的に県内で一番古く、歴史的価値の高いものです。また、全国各地で五百羅漢像の現存は50例ほど確認されていますが、木彫りで造立年代、尊像の製作者まで判明しているものは全国的にも稀なようです。

玉龍院に安置されている五百羅漢像は、1835（天保6）年に永平寺から移り玉龍院12世となった良印禅師が村の飢饉や厄病払い、豊作と健康を祈願して、京都五条の仏師庄司寛太一門に作らせました。そして京都より海路酒田に入り、更に最上川を舟でのぼり、長井から陸路馬に乗り高島の玉龍院に搬入されたとされています。

像は座像、立像の二種があり、座像は概ね高さ30センチ、法輪までは約37センチ、肩張り18センチを測ります。何れも頭・胸・手・足を別々に作る寄木造で製作されており、二カワで接着した後、貝殻から作られる胡粉を塗り、天然顔料で彩色したもので眼はより本物らしくみせるために玉眼の技法（水晶の板をはめ込む技法）を用いて製作され、像一体ごとに名が記され、それぞれ独自の面相をもつ見事な仏体です。そもそも羅漢像とは、釈迦の直弟子1500人のうち、神通力を持った500人の悟りの表情といわれ、人間のすべての表情がうつされているといわれています。新緑の頃、ぜひ玉龍院に自分に似た羅漢像を見つけに行かれてはいかがでしょうか。



▲玉龍院 五百羅漢像

我が館の展示品 (35)

変形振文鏡・乳文鏡

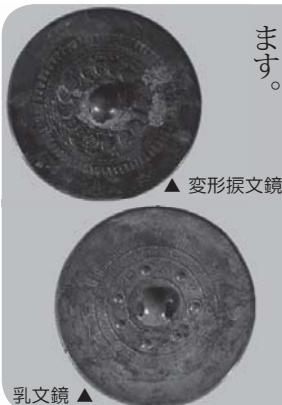
古墳時代

●山形市 お花山古墳群

お花山古墳群は山形市青野、大岡山西側に張り出す小さな丘の上に造られた中期から後期の古墳群で、24基が確認されています。

このうち、変形振文鏡は1号墳から、乳文鏡は22号墳から見つかりました。墳墓には土地の豪族層が埋葬されたと考えられており、変形振文鏡が出土した1号墳からは、勾玉やガラス玉など様々な副葬品も出土しています。

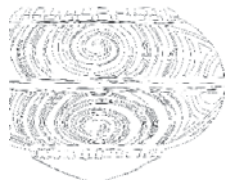
また、その後の分析により、変形振文鏡には中国の鉛が含まれていることがわかっています。



▲変形振文鏡

▲乳文鏡

新しくなりました!
「常設展示ガイド」



当館の常設展示の内容をコンパクトにまとめたガイドブックが新しくなりました。常設で展示している旧石器時代から古墳時代までの展示内容を、展示資料の写真やパネルの図版をふんだんに使用し、オールカラーでより詳しく、わかりやすく解説しています。

詳細は、当館までお問い合わせください。

目次

- 置賜のあけぼの
- 大谷地をかこむ遺跡
- 縄文時代のタイムカプセル
- 古墳を造る人々
- 年表
- 目録